

山が教えてくれたこと② 自然からの励まし

山仲間や仕事で関わる人たちに「ほんとに山が好きなんだね」と言われることがたびたびあります。「みんなは山が好きじゃないのかな？」と不思議に思いながらも「はい、大好きです」と答えます。確かに、おいしいご飯を食べている時や、ふかふかの布団に入ったときよりも山の稜線に立ち、心地良い風に吹かれている時が最も幸せに思う瞬間です。

雪が溶け、花が咲き、野鳥の声が響く。穂が黄金色になり、近くまたモノクロの世界が幕を下ろす。

ただ季節が巡ること、それがどれだけ私の心を温めたでしょう。野生動物との出会いは、山をさらに好きになる大きなきっかけとなりました。

雄大な自然と長い間同じサイクルで営みを続けてきた野生動物たち。自然界で生きる彼らは、崇高な生き物として私の目に映り、動物に対する敬いや憧れの気持ちが芽生えました。ラッセ



Nature Column (ネーチャーコラム)
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

ルにあえぎ、息が出来ないほどの風雪を前に人間は無力だと知り、太刀打ちできない偉大なる自然に対し畏怖の念を抱くようになりました。

山に登るようになって、人間の尺度とは別次元のこういった時間が在ること、自然界の無窮のサイクルに気付き始めてから、山や自然に触れることが私自身への“励まし”へと変わっていききました。

その無限の励ましは、私の心の奥深くまで根を下ろし、くじけそうなときに自分を見失うことなく立ってられる根幹となり、いつも支え続けてくれる大雪山に対し恥づかしくない人でありたいと思いながら生活をしています。

今も静かに取り交わされている自然界の営み。それらを知っていること、実感を持って想像出来ることは、私の中で消えることのない大きな財産となり、これからも私を励まし続けるだろうと信じています。

環境省東川自然保護官事務所アクティブ・レンジャー
渡邊 あゆみ



カナダの食生活

東川町国際交流員(CIR) ソエ

日本に来てから「カナダではどんな物を食べますか?」とよく聞かれますが、実は答えに少し困ってしまいます。なぜかというと、カナダの食文化は、さまざまな影響を受けて作られているからです。

イギリスがカナダを植民地にした時、それと同時にさまざまな国から移民が集まりました。

最初はヨーロッパからの移民が多く、現在は世界中からカナダに移り住んできており、5人のうち1人が外国生まれといわれています。このようにことから移民で造られた国の食文化は簡単に説明できるものではありません。

先住民の食べ物、自然からの恵みである動物、ベリー、穀物が中心でした。現在のカナダになつてから考え出された食べ物の種類は少ないですが、「ブテイヌ」といってフライドポテトの上にグレービーソースとチーズをのせたものや、はちみ



ナナイモバー

つで味付けされた甘い「モントリオール風ベークル」、デザート「ナナイモバー」はとても人気があります。

メキシコのタコスからイタリアのラサニアまで、カナダに移り住んでから後世へと伝わった食べ物がたくさんあります。またその国の料理がカナダの文化と合わさることで変わってきたケースもあります。

例えば「ジンジャービーフ」は、揚げた牛肉に中華風のソースをかけたもので、中国人のシェフがカナダの人々の口に合うように考えた中国料理です。そのため、カナダの食べ物は国際色豊かな料理だという人が多くいます。

「カナダではどんなものを食べますか?」という質問に答えるならば、昔のものと新しいもの、郷土料理と世界の料理が融合して美しい食文化になっているというところになりま